

スタートアップコンテスト インパクトピッチ

「社会課題の解決」で世界的な成長を



FIN/SUMの3日目、3月31日午後には、フィンテックを事業領域とするスタートアップのコンテストを開催した。今年も、「自社が解決しようとしている社会課題は何か」「200億円資金調達したら何をやるか」に焦点をあて、「インパクトピッチ」の名称にした。最優秀賞の「日経賞」のほか、「SBI賞」と「三菱地所賞」を選び、計3社を表彰した。

インパクトピッチでは書類審査を通過した応募企業40社の中から選ばれた次のファイナリスト8社の関係者が順次登壇し、プレゼンテーションと審査員5人との質疑応答を実施した。

- 五常・アンド・カンパニー 遠隔制御技術を活用した金融サービス
- Global Mobility Service (GMS) 二車種の遠隔制御技術を活用した金融サービス
- スマートバンク 家族の資産形成のための支出管理アプリ開発
- Optimal Japan 模倣品被害防止用の鑑定証明システム
- トリニティ・テクノロジ 認知症高齢者の資産管理問題などに対応する家族信託サービス
- MonetaGo 貿易金融の不正防止用ソリューション
- サステナブル・ラボ 二車種を活用した非財務データ可視化サービス
- FUSDOCK 二車種のオンライン本人確認サービス

世界的な社会課題として注目される「金融包摂」の旗手として頭角を表している日本のフィンテック・スタートアップ。IoTデバイス(M2M)を活用した独自技術によって遠隔制御を、ローンやリース料の支払いが滞った車両をエンジンがかららないようにできるビジネスモデルを運用している。

このスキームを使った金融サービスは、通常のローンやリースだと審査が通りにくい人々にも信用供与の範囲を広げ、個人事業主として車両を使う仕事などに就業できるようにするのが特徴だ。

GMSはフリービーンで、三輪タクシーのドライバーとして生計を立てている人々のローン需要を取り込み、知名度を上げた。今、事業エリアは日本やカンボジア、インドネシアに拡大。日本では配送用軽自動車のリース事業や在外国人を対象にした自動車ローン事業を手掛けている。

「高齢化は先進国のメガトレンドなので、グローバルにもとら成

審査員講評



仁位 朋之氏  
SBIインベストメント  
取締役執行役員

今年のコンテストでは、日本のスタートアップが進化していると感じました。ポイントは2つで、事業のグローバル化とSDGsというメガトレンドです。今回、GMSが堂々と日本の企業として世界に打って出ている姿などは、非常に頼もしく思いました。



須賀 勝昭氏  
日本生命保険  
調査役

今回は社会課題の解決を目指し、日本から海外に打って出ようとする企業が多い印象でした。特にGMSのソリューションは、DXで保険会社と自動車をつなぎ、ドライバーの健康状態から事故の予兆に関する情報を取得するような将来展望も考えられ、高い可能性を感じました。



堺 美夫氏  
三菱地所  
xTECH運営部  
ユニットリーダー

グローバルに活躍できそうなスタートアップが多かったのが、今年の特徴ではないでしょうか。日本だけに閉じこもったサービスが比較的少なかった。サステナブルのような、これまで資金がつきにくかった領域でも、挑戦がしやすいようになったように思います。



渡辺 徳生氏  
QUICK  
イノベーションセンター  
センター長

日系スタートアップが多かったにもかかわらず、グローバル展開を見据えた企業が多数だったのは頼もしい限り、マイクロファイナンスなど日本ではあまり注目されない市場を見据えた展開も興味深かった。今後の各社によるグローバルな活躍を期待しています。

長してほしい。SBI賞を受賞したトリニティ・テクノロジについて審査員の仁位明之・SBIインベスメント取締役執行役員はこうコメントをし、その高齢化社会の課題を解決するビジネスモデルを高く評価した。

三菱地所賞を受賞したサステナブル・ラボも、世界的に企業の間で進

むESG、SDGs対応やその情報発信強化の機運が追い風になるビジネスモデルが審査員の間でも注目され、三菱地所 xTECH運営部プロモーション・エコシステム推進ユニットユニットリーダーの堺美夫氏は「欧米をリードするくらいに存在に成長することを祈っている」と期待を述べた。

【三菱地所賞】

サステナブル・ラボ



貴志 優紀氏  
Chief Financial  
Officer

【SBI賞】

トリニティ・テクノロジー



磨 和寛氏  
代表取締役 CEO

【グランプリ】

Global Mobility Service



中島 徳至氏  
代表取締役社長 CEO

Speeches

融資特化のSaaS提供



野村 逸紀氏  
nCino 代表取締役社長

nCinoは金融機関の法人・個人融資に特化したSaaSを提供している。融資支援、格付け、財務登録分析など業務ごとのシステムを集約し、クラウド上に一気通貫のプラットフォームを構築することで業務の効率化・収益向上をもたらす。地域経済活性化にもつながれる。

分散システムを統合、分析も



佐伯 慎也氏  
ダイナトレック 取締役 プロダクトマネージャー

銀行内外に分散する様々なシステムやデータ等を仮想データベースで統合するシステムを提供している。統合されたデータはすぐに比較・分析でき、即座に本部や営業店のアクションにつなげられるほか、新サービスの構築や顧客データの横断的な活用にも使える。

日本のDX実現に挑む



小坂 慎吾氏  
アクイアジャパン カントリーマネージャー

同社の創業者、ドリス・バイタルトが開発したオープンソースのDrupal(ドルーバル)は、デジタル庁が推進する実証実験に採用されるなど国内での活用が進む。Drupalの正しい活用法を広めてさらなる需要の創造を目指す。

オルタナデータの活用事例を



山内 康弘氏  
QUICK サービスプロダクト本部 副本部長

日本はオルタナティブデータの黎明(れいめい)期だが、KDDIは金融データ、本田技研工業は車両の走行データ、国際航空は航空測量データを提供し、社会貢献活動にもつなげている。今後の利用拡大に実務レベルで活用イメージを持ってもらうことが重要だ。

問い合わせ業務を軽減



石井 健吾氏  
Nota 営業本部長

オンラインのFAQ(よくある質問)や電話の問い合わせで欲しい情報を得られず不満を抱く利用者は多い。「Helpfeel(ヘルプフィール)」はユーザーの検索ワードから予測した質問内容をサジェストする機能や、入力情報に応じた個別サービスを案内する機能を持つ。

決済システムで外資と連携



廣澤 恵司氏  
大日本印刷 情報イノベーション事業部 PFサービスセンター  
マーケティング・決済プラットフォーム本部 部長

当社は外資系フィンテック、エピソードシックスと協業しプリペイドシステムを提供。共同案件「JAL Global WALLET」では設計・開発を協業先に、当社が全体統括、要件定義、検証・運用を担当した。開発スピードなど外資との連携で学ぶべき点は多い。

行動データ分析、顧客離脱防ぐ



谷田部 丈夫氏  
NTTコム オンライン・マーケティングソリューション  
Mixpanel Data Consultant

Mixpanelはフィンテックアプリやウェブサービスの顧客行動データを集計・分析することで、コンバージョンを向上する、リピーターを育成する、解約を防止するなど、サービス・プロダクトの成長を強力にサポートする。

決済サービスを技術で変革



荒瀬 大介氏  
ストライブジャパン 共同代表取締役

当社は決済サービスを変革するテクノロジー企業。グローバル展開と同時に各国に応じた開発も行う。金融機関と事業者をつなぎ、決済のみならず、利便性の高いオンラインでの口座開設やカード発行、資金移動の実現を支援する。